

# 一如と對立

京大教授 文學博士 羽 溪 了 諦

本稿は去る六月二十九日(月)天六學會集會室に於ける校友會主催講演會の講演要約である。文責は編輯部にあることを附言します。

今夕「一如と對立」といふ講題の下に私の豫々信じて居ることの一端を申し上げる機會を得ましたことを衷心より喜びとするものであります。

## 對立の世界

世界に有名な「イソップ物語」の最後に、見やうに依つては非常に考へさせられる意味慎重な寓話が掲げられて居ます。それは一人のお百姓が息子と一緒に一匹の驢馬を曳いて街に賣りに出た。そして色々他人の批判にまどはされ、遂に驢馬を河へ落してしまふ話です。

無論作り話であります。これには色々

な意味が含まれて居ります。明瞭に現はれて居る所は對立の世界は行き詰るといふ教訓を垂れて居るのであります。對立の世界は行き詰る、飽迄親子を對立させてさうした違つた立場から色々な判断を下す、尤もなことを云つて居る。道理らしいことを言つて居る、さういふ立場から色々な判断を下す、それに行くと遂には人間と馬迄對立させて、人間が馬を擔いで行かなければならぬやうな矛盾が起つて遂には馬を川にはめてしまふ、對立の世界は行き詰るといふ

ことを具體的に吾々に教へて居る寓話だらうと私は味つて居ります。

## 一如と對立

これに對して一如といふことは、如何に形は千差萬別に違つて居つてもその根元は一貫した意義によつて結ばれて居る。こう見るのが一如の立場であります。由來西洋の文化はその對立の立場の上に築かれて居る。こう申すと必ずしもさうではないではない、矢張り宗教では愛も説けば物心一元論を説いて居る、必ずしも對立の立場に立つて居らぬではないかと云はれるかも知れません。一應尤もです。併し西洋の思想はその精神を味つて見るとその根本は對立といふ所に成り立つて居るといふことが判つきりと認められる。西洋の精神で一如的な、平等的なことを説いて居るのは對立が行き詰り、その行き詰りを解消しようとする一時の方便であつて、その根本は飽迄對立であります。これが科學の發達した根柢になるのです。ところが

大正十一年六月十五日創刊  
昭和十七年七月十日停刊  
昭和十七年七月十五日發行  
編輯長 謝 原 數 氏 誌  
發行所 大正市北區堂島  
上三丁目十五番地  
印刷所 西大 谷 口 印刷所  
大正市東區川原長橋  
中道二丁目十二番地  
發行所 關西大學學務部  
會員登録番號二〇六〇〇四

目 要 號 一 百 二 第

校 友 欄	一 如 と 對 立
學 內 報	皇 國 民 の 使 命
報 告	本 間 俊 平 (五)
	新 刊 紹 介
	統 制 經 濟 の 政 策 論 的 理 解
	松 原 藤 由 (八)
	羽 溪 了 諦 (一)
	(七)
	(二)
	(三)

吾々東洋の文化、殊に佛教文化といふものは一如といふ精神が根幹を成して居る。私は東洋と西洋との思想文化を區別する最も判つきりした標準は一如と對立であらうと見て居るのであります。例へば諸君のよく御存知の例を引けば西洋の最高の道德は汝の敵を愛せよと教へて居る。敵を愛せよといふけれどもやはり敵といふものを對立させて居る。だから強いてやりましても、強いて敵を愛しても偽善に陥る。心の中には敵だといふ對立觀念を持つて居る。彼等は敵だといふ觀念を有つてどうして愛することが出来ませう。敵といふ觀念に提はれて居つて愛するといふことをしたところが偽善です。ところが一如の精神に立つ東洋ではどういふか、汝の敵とは云はない、怨親平等と云つて居ります。怨も親も平等だ、これは諸君は余り聞き馴れぬ言葉かも知れませんが、吾々佛教を學んで居るものにはざらに出て來ます。これは佛教の緣起思想から出て來るのです。

緣 起 思 想

緣起といふ言葉は今なほお互ひに日常用語として使つて居ります。緣起が良いか悪いか、現在の日本語で用ひて居る緣起は人間の運命に關係したことのやうに解されて居るのでありますが、本來緣起といふ意味はさういふことでなく、これは佛教の根本思想を表はした言葉で梵語ではプラリートヤやサンドパーダーと云ひます。プラリートヤといふのは相

寄相扶、サンドパーダーは起り生れるといふ言葉、だから緣起です。緣とは寄りです。寄りて起る、斯う讀めば直ぐ判ります。寄りて起るといふことは何事を示して居るかといふと、吾々は現に與へられて居る人生、世界の有らゆる事柄、物柄、凡てが相寄相扶けて、持ちつ持たれつして居る。有らゆる物は直接、間接に關係づけられてゐる、影響し合つて居る、お互ひ全然關係なしにそのものゝみで存在することは絶対にない。ところが

案外多くの人はこの平凡な眞理といふものを見逃して居る。大體に眞理といふものは平凡なもので何か學問した人は雲の上にもあるかのやうに思ふが眞理といふものは平凡な物です。その平凡な眞理を萬人が見逃して居る。ニュートンはリンゴが枝から落ちたのを見たのが契機となつて萬有引力の法則を發見した。リンゴでも何でも熟して枝から落ちるのは當然です。この平凡

究る一つの事實から天才のニュートンが普偏安當の眞理を發見した。眞理は平凡なところにある、凡てのものが關係づけられて居り、相互交渉を有つて居るところの海に平凡なものです。ところが之を坊さんが見て、例へば道德的立場に於ても俺は俺だ、他人は他人だと五尺の肉體を城郭にして自我意識をその中で籠城させて外界を睨めつけて居る。自分さへよければよいといふのは是は緣起の眞理といふものを踏踏つて居る証據です。

こんなことをくどく申す必要もないけれども御參考に申上げて置きますと、私共の體は精神と肉體の兩方面から出來て居る。肉體の方面だけを考へて見ても吾々の肉體は細胞組織の新陳代謝で出來て居る。

相互の交渉、影響といふものは肉體ばかりでなく精神もそうです、心といふ日本語はゴロ／＼といふ言葉であつたものだといふこと、吾々の意識はゴロ／＼と轉るから變る、吾々の心がどうして動くかといふと外界の刺戟、影響です、他人の言つた言葉、他人の説によつて悲しくもなり朗らかにもなる、天氣の如何によつて鬱陶しくもなれば晴れやかにもなる、外界の影響によつて吾々の心が動いて來るものです。昔から以心傳心と云ふことを云はれるがものゝ極意は不束な言葉で傳へられるものでない、心から心へ端的に投げ込む、それが以心傳心です。こんな適當の出來るのは吾々の

心に關聯性があるといふ証據です。そのことを最も著しく証明するのは催眠術です。

吾々の今日の文化生活といふものは單純なものではない、だから吾々のこの生活といふものを深く掘り下げて行つたらば古今東西、有らゆるものが出來て來るものでないといふことは生きて行けないのであります。元氣のよい諸君は我が身は己の力で生きて居ると考へて居るがこれは認識不足です。吾々の目に見えぬ無限の力によつて生かされて居る存在です。だつて吾々は働いて勉強して生きて居るぢやないかと云つても兩親が無かつたら働くことも生きることも出來ません。馬鹿であつたら何ぼ勉強しても大學に入れない、さういふ能力に恵れて居るといふのは兩親のお蔭でせう。だから吾々は求めざるに先立つて與へられて居る、他の限りない力がなくては今日のやうな文化生活が出來ないといふことは明瞭な事實です。

さういふやうに緣起といふ立場から吾々の道德生活を見てもその發達が判つて來る、經濟生活に於ても同じことです。今日は經濟觀念が戦時で變つて來て、物を大切にするといふ愛護心が一般化して海に結構なことです。今迄は大概の人は俺の物は勝手にする、所有權のあるものだから俺が勝手に使つてもよい、當然の權利のやうに思つて居るけれども、一本のチヨークだつてこれがどうして出來る

か、これは一つのプロダクションの力によつて出來たものでない、生産されたものです、これは自然の力、労働の力、資本の力、それが生産の三要素ですが、一本のチヨークを生産する爲に力をかけた所の労働者、資本家がどうして生きて居るか、その工場全體の衣食住はどうして居るか、一本のチヨークを中心にしてそこ迄問題を擴げて行つたならば最早日本國內だけの問題でない、吾々の身に絡つて居る着物はスフ入りであります、スフ計りの着物はありせん、二割からの木綿が入つておます、その原料はどこから來るか、濠洲から、印度から、英國から來た原料を吾々の身に絡つてゐる。日本では外國から來たものを仕立て、くればたゞけです、大分前に國產愛用の問題が盛んで大いに強調されたことがありますが。しかし國產と云つて何が國產でせう水道の水でもこれは外國から學んだものです、昔は井戸の水です、だから經濟生活といふものから見ても總てのものには有らゆる力を綜合して出來る、普請といふ二字は建築といふことに使ふが本來はさうではありせん。普く力を請ひ寄せるといふ譯で、一事一物として普く力を寄せてなりたないものはありません。私の體も普請です、それが今日建築といふことに限定して用ひられるのは徳川時代から來て居ります。神社佛閣を建てる時には合力によつて、例へば大阪の天王寺の塔は大眾から金を集めてやつたが合

力と書いて居ります、普請合力と云つて普く力を請ひ寄せることだが、それが徳川時代から神社佛閣を建てる時だけに普請と云つた。それが段々一般化して我が金で建てる場合でも普請といふやうになつた。

さういふやうに總ての力を請ひ寄せて合力によつて成立つ、例へば法律上自分の所有権は認めてありまして自分勝手に使つてよいといふ権利はありません。自分一個の力で出来たものなら自分一個

たものは何一つありません。皆無限の力によつて出来たものです。自分の物は自分のものだ、だから自分勝手に使ふといふものは主我的經濟生活と云はれます。佛教の悟といふものは縁起の眞理を悟ることです。禪尊は三十五歳にして縁起の眞理を悟つて佛になつた。これはどういふことか、今自分といふものを中心として自分以外のものを眺めた場合に自分と無關係のものは一つもない、日本哲學の先覺と云はれて居る道元禪師は佛法

を習ふといふことは自己を忘れる也、自己を忘れるといふことは有らゆる存在の上に自分の姿を見出して行くことだ、自分以外のものを具體的内容として投寫する世界、これが縁起の眞理である。何が俺の正體か、俺の存在か、何を指して俺といふか、學問のない人は僕はこれぢやと云つて片附けてしまふが、俺と云ふものはオギャーと生れたら死ぬまで變らな

いものだと思つて居る。だから金の貸借も出来るのですが、俺といふものは變るものだと云つたら三年前の借金を催促されても俺はもう變つてゐるぞと云つて金の貸借も出来ません。しかし肉體は四六時中變つて居ります、滿七ヶ年毎に細胞組織は變つてしまひます。變らんものは何かあるか掴みやうはない、とに角俺といふものを中心にして居る、さうして俺の頭、俺の手足と云つて居る。悟つて居りますね。自己といふ意識を中心として五尺の肉體だけは縁起の關係を體驗して居ります。何と云つても自分程變るものはありません。無關係の間に人間の愛情は起りません、切つても切れん關係があるから愛情が起る、何でそれ程我が身が可愛いといふと自己意識を中心にして悟り切つて居ります。これは俺のものだと信じ切つて居ります。だから可愛いのです。他人の子供よりも自分の子供の方が可愛い。それは血を別けた切つても切れん關係がありますから我が子が可愛いのです。私の村に年寄が居りましたそれが或る年京都に行くのに敦賀の驛で車が停つた。敦賀の驛には洵に綺麗な櫻が満開であつた。そのお爺さん汽車の窓にもたれて一人言を云つた。

今年も亦家の櫻は綺麗に咲いたと云つて居ります。一緒に居つたものが吃驚して、このお爺さんえらいことを云ふんだ敦賀驛の櫻を見て家の櫻と云つたと云つて感心して居るから私は君、それは違ふ

よ、驛の櫻を見ても家の櫻と觀賞出来る、他所の子供を見ても家の子供と見ることが出来る、これが出来なかつたら八紘一字はやれない、東亞新秩序のモットーとして八紘一字と云つて居りますが、この自覺がなかつたらどこかに逃げますよ、これがあつてこそ具現出来るのです、この自覺に立つてこそインドネシア人もマレー人もフィリピン人も更にビ

ルマ人も皆一大家族として抱擁することが出来る、これがなかつたら出来ません。だから佛教の悟りといふものは觀念です、對立の世界ではこれが出来ません。宗教上の悟りは死ぬといふことを思つたり考へるといふことは全く違ひます。今の宗教は皆思ふといふこと計りですこれは佛教の根本的原理です、縁起の根本原理は何かといふとそれは因縁關係です、ところが吾々西洋人の學問をしたものは因縁關係では行きません。因と縁とは混同して居ります。朝顔の種は因で花は果です、因から果が出来る、直接に縁をからずして因は決して果にならない、因の種をいくら天井にぶら下つてをいても花は咲かない。こんなことをして居つたら千年萬年経つても花は實を結びません。土に埋め日光にさらし肥料をやつて初めて花といふ果がなる、これは洵に見易いことです、西洋の學者はどういふものか縁といふ一字を見落して居ります。三ツ兒の魂百迄といふことがありますが今迄の西洋人の家庭に於てはお母さ

らでも日曜學校の先生でも創生期の話をして聞かせる、あのバイブルの創生期は神といふものが因です。世界は神が造つた、神は何によつて造られたかといふことは書いて居りません。その神から直接世界といふ果が出た、それが頭にこびりついて居るから三ツ兒の魂百迄といふのです。堂々たる大哲學者であつてもやはり因から果が出て来るといふやうに連斷するのではないかと私は想像します。ところが東洋では因より縁を喧しく云ふ、

因があつても縁がなかつたら果がならぬいぞ、その影響が未だに非常に日本に来て居ります。日本人程縁をよく使ふものはありません、何んでも縁です。

世間では偶然といふ、偶然といふ言葉で總ての問題が解決がつくやうに思ふのですが、これは偶然といふのは胡麻化し

の言葉です。因つて来る原因、根據が判らんと偶然でねえと云つてボカしてしまひます。ポアンカレは偶然といふのは吾々人間の無智を云ひ表したものに過ぎないと云つて居ります、因つて来る原因が判らんで偶然と云つて胡麻化して居ります。このお互ひは表面的には無關係のやうでありますけれども内面的には一ツの力によつて統一されて居ります。これは縁起の力です、とに角吾々人間が最高の人格を生み出すところの最高の價値の力が總てのものを統一して居ると見ることです。縁起の最高の眞理を悟つて最高の人格を生み出すところの最高の價

値が有らゆるものを貫通して居ります。

一切衆生悉く佛生であるとするのです。

随つて吾々は怨みも親しみもない、切つ

ても切れん縁があればこそ、怨みは親し

きより起るといふ言葉があります。彼奴

は憎い奴だ、一度毆つてやらうといふ

心が起るのは相手と自分との間に切つて

も切つても切れん關係があればこそ起る

ので、全然無關係のものが怨みを持ちま

すか、親身の友達が喧嘩するのは竹馬の

友だから喧嘩して却つて友情が蘇つて來

る。怨親平等はそこから來ておます、戦

場に向つたらやつつけるが戰場を離れた

ら敵とは云ひながらこれを勞はり尊敬す

る、敵となるのも偶然でない、お互ひに

殺し合ふやうな間柄になるのも何かの

關係があつたからだ、縁も因りもないも

のが撃ち合ふ筈がない、前世から結ばれ

て居つたからこそ撃ち合ふのだ、これは

非常に深淵な人生觀です。だから日本の

怨親平等を根幹とするころの武士道では

敵を非常に尊敬します。戦死した敵兵

の菩提を葬ふといふことは昔からありま

して何も今の軍部が始めたことではあり

ません。滿洲事變の直後に北大營に行つ

た時にも支那勇士の墓と書いてあるのを

見た、日露戦争の古戰場旅順に行つて御

覽、日本軍が最も苦戦した東鶏冠山には

自然石に露國の將校の爲に墓が建つて居

ります。

その他色々怨親平等の建前から建てら

れたものは澤山ありますが、怨親平等の

立場から敵をも愛するのであります。第

一次歐洲戦争の終んだ後四年目にフラン

スのパリに参りました時分にベルダン

の要塞を見に行つた、こゝにはベルダン

の要塞戦で活躍したフランスの青年達の

墓が到るところに建つて居ります。なか

く、贅澤をつくしたもので眼のとゞかな

い程の廣い範圍に墓が建つて居ります。

案内者にドイツ軍の墓が一つもないぢや

ないかと聞くと案内者は妙な顔をして、

ドイツは敵ですよ、敵の爲に何故墓を建

てるんですか、私は實に淋しかつた。も

しこれが日本軍であつたならばたとへ敵

とは云ひながら死んだら怨親平等、何の

怨みもない、必ず日本軍であつたならば

立派な墓を建て、あつたらう、對立の觀

念しか知らない西洋人は敵の爲に一基も

建て、居りません、非常に心淋しく思つ

たことは今尙感して居ります。

しかしこういふ一如の精神といふこと

は一切の存在も内面的には一ツの力によ

つて統一されて居ります。その統一の立

場に立つて總てのものを敬ひ、引いては

愛する、これが東洋文化の殊に佛教文化

の根底をなすものだと思ひます。だから

この精神が現はれる場合には二ツの方

向をとる。日本個有の表現でとれば荒魂

と和魂です。荒魂といふのは手荒い勇敢

にして飽逆倒さう、一方の和魂は柔和に

相手を抱へやうとする、この日本個有の

荒魂と和魂が鏡の如く、神の如く正明な

心によつて統一されるところの日本獨特

の荒魂と和魂である。この荒魂と和魂と

といふものを力づけ培養したのが佛教の

折伏と攝受です。折伏といふ方は手荒く

やつつける、これを代表したものが不動

尊です。不動明王は日本には澤山ありま

す。非常に恐ろしい顔をして居りますが

あれは吾々の心の中には折伏しなければ

ならない悪魔が居ります、英米流の觀念

が居ります、唯物主義、個人主義、これ

は未だ國內に残つて居ります。英米は大

平洋からやつつけたが眼に見えない敵が

未だ心の中に殘つて居ります。この悪魔

をやつつけなければならぬ。不動明王

の劍でやつつける。これは相手を倒すだ

けでなく相手の邪まな心を叩き破つて

正しさを現はすといふことです。これを

具體化したものが菩薩です。その相好を

見れば全く不動明王とは對象的な惚々と

した姿をして居る。これを信仰して居る

人もなか／＼多い。日本に不動明王と觀

音の信仰があるので始めてこの一如の精

神が活きて來る。しかし日本人の荒つぽ

いは荒魂のための荒つぽさでなく、そ

れによつて和魂、維神の無我の鏡の如き

誠心を現はすといふのが荒魂の發現する

所以です。日本の荒魂、和魂は共に神の

如き、維神の道に基かなければ本物であ

りません。

今吾々は大東亞新秩序の建設といふ大

使命を國民一人／＼の雙肩に擔つて居り

ます。これを本當に具現するにはこの

小つぽげな五尺の肉體、それが俺だ、こ

れさへよければよいと云ふやうな、さう

して他のものをこれに對立させて見ると

いふ偏狹な主義に提れて居つたら八

紘一字の具現は出來ません。吾々がお互

ひ同胞は總ての人類とその内面を統一

するところの最高價値の認識、自覺の立

場からどんなものにも心を合す、手を合

して拜む、歸依するといふところから眞

の愛情を以てこれを懷き抱へて行く、八

紘一字といふものは先程申したやうに全

世界の有らゆる民族を一大家族にして統

一するといふことです。だから西洋文化

の根底をなす對立的な立場を反省して新

しい東洋個有の最も輝かしい一如の精神

を以て、千差萬別であつてもその根底に

は佛生を持つて居る、だから總ての佛生

を持つものに對しては手を合して拜む。

その心を以て今後大東亞の建設に當ら

なければならぬ。大事な問題です。實

際今はマレーに行つても何處に行つても

日本人は救主として尊敬して居ります。

彼等の期待を裏切らないやうにする爲に

本當の尊い日本個有の八紘一字、佛教の

一如の精神に基く立場から今次の大戦争

の目的を完遂されたいと思ふのでありま

す。

× × ×

× × ×

# 皇國民の使命

本 間 俊 平

本稿は去る三月三十一日天六學舎本部集會室に於て校友會主催講演會の席上山口辰雄氏の筆録にかゝるものである。

このたび綾部の郡是興絲株式會社の創立者にして前社長なる故波多野徳吉翁の廿五年記念講演會が営まれて、御生前一度も御目にかゝつた事のない私が、どうした機縁か翁の記念講演を御引受けすることとなり、久し振に綾部に参りましたところ、引續き京都府教育會の御依頼にて福知山、舞鶴、久美濱、宮津等の府下各地を巡講させて頂き一昨日京都市の集會をすませたのでありますが、今夕は懐しい御校に三度御邪魔させて頂き皆様に御目にかゝる事を許されて、誠に有り難く厚く御禮申上げます。

す。之は獨り京都府下のみの問題ではなく日本中共通の惱みだと思ひます。私の考へますところでは「眞の教育」とは暗き精神を明くし、弱き者を強くし、迷へる魂を天地の大道に則らしむることであると思ひます。文部省が一定の教科書を定められた趣旨は「此書物から一步も出てはならぬ」と云ふのではなく、二年生なら此程度、三年なら之位ではあるまいかと御相談の出来たものでありませうから、之を用ひる教育者の人物次第では、之を直に觀音經にも聖典にも變へることが可能であると存じます。教育なき宗教は何百年経つても生命を興へる事は出来ませんが、同様に教育が宗教を輕蔑致しますと死せる教育となつて終ひます。昔から「大道多岐を以て羊を失ひ學者多方にして生を喪ふ」とか云ひますが、偉い學者達の中には過學の不幸から亂視状態となりましてどうでもいゝやうな瑣事のために恰

も綱にかゝつた小鳥のやうに、じたばたと腕き苦んで居る人が多いのであります。禪話の中に驢馬がぐる／＼同じ棒杭を廻つて居る間に、次第／＼に杭に縛りつけられて死で終ふ話がありますが、なまじつか知識がある爲に、其知識に縛られて動きのとれぬことになる場合が少くありません。我々は時には難しい理屈は後廻しにして素直に端的に人生を渡ることを努め度いものであります。やかましい理屈はいらない、唯子供の本分なるが故に孝を盡し、妻の本分なるが故に貞をつくすだけで其審判は天に任すと云ふ裕かな生活を爲すやうに心掛けることは誠に大切なことでありまして、光明の世界はかゝる心構から出て來るのであります。かゝる態度こそ人間の精華とも申すべきでありまして、之をぬきにしては動物の生存と大差ないことになると思ひます。吾々は動もすると自分の勤めて居る現在の仕事を軽く見る缺點がありますが、今日託されて居る自己の任務を尊重し、これに生命を盡すことは極めて大切な問題で御座います。教育は學生生徒を心から敬ひ一人一人が皆神様の大事な息子、娘であると考へるのでなければ教育にはならないと思ひます。人を輕蔑し人を馬鹿にして居る所には目出度き世界は現はれて参りません。他人に對する優越感地獄へ直通の切符であります。之は何も御互ひ日本人同志に限りませ

ん。滿洲人であらうと支那人であらうと、マレー、ビルマ、印度あたりの少々色の黒い兄様方であらうとも、苟も人間として靈魂の尊貴を知り、又之を神の如く尊重するのでなければ様々の法令を雨と降らしめても、どうにもなるものではありません。私共は外なる形を以て輕々しく人間を測量するやうな淺薄な誤謬に陥つてはなりません。人間としてこの世に生れし眞義に徹し歡喜の感涙に咽び、喜に充ちたる私の不可思議な生命は人を人として尊敬するところから出て來るので御座います。これが新なる理想世界の出現となるのであります。

× × ×  
諷つて、宗教家と稱する人を見ますればこの種の人の中には、餘りに理屈に墮しすぎる人が多い。  
基督は在世中、ガリラヤ湖畔を三周したとか、いや三回半が本當だとか、彼の生れた馬槽は楕圓形だと云ふ者があるかと思ふと、いや長方形だつたと反駁すると云ふ騒ぎで實にやかましいことでもあります。私は所謂宗教家と稱する方々の中には基督や釋迦を餘りに高く祭り上げて居る人が少くないと思ひます。今日必要なるは釋迦や基督をもう一度も二度も人間として見直すことであると思ひます。  
木匠としてのイエスを深く／＼知りませんと、なんぼ研究しても神の子イエス

は分らないのであります。人たる釋迦もつとよく分りませんと、久遠質成の如來様はさつばり我心に現れ來らぬのである。

私が斯く申し上げる爲に冒瀆であるとか不敬であるとかの非難を受けるかも知れませぬが、神様は存外此考をお喜び下さるものと私は確く信じて居ります。耶穌は我々と共に苦み我々と共に汗を流して働いて居るのであつて、唯遠くに拜まれてばかり居ることは耶穌は大嫌であると思ひます。諸君、少しく極端に申上げるならば、私自身を離れて、或は妻を離れて、或は又弟や子供や女中を離れて神様はないのです。故に女中を馬鹿にすることは、とりも直さず如來様を馬鹿にして居ると同じことである。雇人を輕蔑し、生徒を馬鹿にすることは、恐れ多い話ですが伊勢の大神様を輕蔑して居ると同じであると思ひます。過言ではありません。神様は案外、人間であらざる。人間を馬鹿にして神や佛を云々しても、それは畢竟謬言に過ぎません。私共は之迄の誤れる對人觀、對物觀を是非とも訂正する必要があります。

我々は一體、自分自身の價値、自分の眞の姿を如何様に考へて居るのでせうか人間様を割引どころか、ほんの僅かしか見て居ない人の多いのは如何にも残念な事でありませぬ。私は假令、米國全部をや

るから、お前さんの禿頭をこちらへよこせと云はれても此交換は勘辨して貰はねばなりません。我々の生命は單なる物を以て代へることの出來ぬ貴重なるものであります。

今夜は此席に葛城山高貴寺の伎人御住職も見えて居られますが、御開山慈雲尊者は祖國日本の貴き姿を誰れよりも深くお考へ下さり、又體得して居られた實に偉いお方でありませぬが、我々は尊者の母君が幾多の困難の中にも深く吾子の將來を信じられた大いなる信仰に深く學ぶところがなくてはなりません。

私は昔、日清役當時大阪株式取引所の建築を大倉土木組にて引受け、其技術員として出張を命ぜられ滞阪申俄かに命令が下りまして、御當地にて急遽墓

集した小千人の軍夫を引率して朝鮮に渡つたのであります。其中には所謂博徒や無賴漢と言はるゝ方々も少くなく始末に終へぬ人々も大勢居たのであります。多くなりの人々は青年本間が果して任務を完ふし得るや否やを氣遣つてくれたのであります。我々を乗せた船が牙山の沖合にさしかゝりました時、支那兵を積んで居た英國の汽船が二つに折られ殿上に憐れな姿を曝露し居りました。不思議なことには之を目撃した瞬間からまさかのとき物の役にも立つまいかと案ぜられて居た此の無賴の徒は忽ち一變して實に頼しき益荒男に變つて終つたのであります。

私は日本精神の其淵源甚だ遠く如何にも適當にして且つ不可思議な生命と勢力を藏して居ることに今更の如く感激を新にしたことで御座居ます。

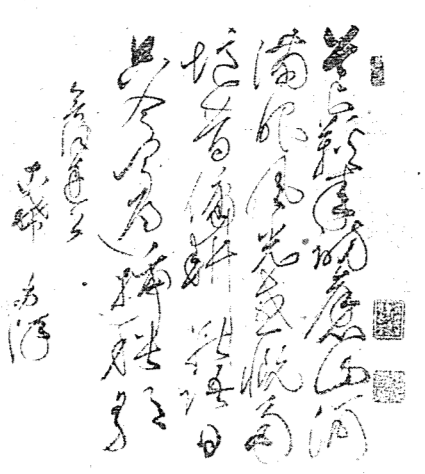
私がかねてより「人は生命を創造することは不可能である。故に人の造つたものは生命なく死物である」と信じ機會ある毎に何處でも叫んで居る者であります。天の御中主の命と讃え奉る神様

によりて生れたる神國日本と、人間が相談して拵へ上げた國々とは較べる迄もありません。マサリック博士が主となつて造りたるチエツコ國は廿年足らずで消えてなくなりました。オランダ等は訪ねて見てもオランダと云ふわけで大體名前前からして不景氣であります。

其他の國々も大抵似たりよつたりで、英米恐るゝに足らずと云ふ私の年來の持論は——難しい政治、經濟の事は存じませんが——世界に國多しと雖も我國の如き天興の神秘なる大生命を惠れて創造された國は他にないと云ふ確信の上に立つて居ります。私は他國を輕蔑して、とや角申して居るではありませんが、世界中何處にも見當らない、貴い國柄に生をうけ、然も皇國一大躍進の聖代に生れ合せました事は何と云ふ有り難いことでありませうか。眞に御同慶の至りであり、誠に感謝の外は御座居ません。

大阪は、世間では商業の都とのみ考へて居るやうですが、日本で古來之はと云はれる程の人物は直接間接御當地に縁故のある人であると申しても過言ではありません。我々は範を遠くに求める迄もなく、藤樹先生や慈雲尊者の母君から教育の眞精神や宗教の眞髓を學びたいもので御座居ます。

拙い話を長時間御静聽下さいまして誠に有り難う御座居ました。厚く御禮申上げます。



(本間先生筆)

新刊紹介

關西大學教授  
經濟學博士 正井敬次著

國民經濟組織論

（國民經濟原論第一編）

今日經濟學の理論體系を打建てんとする試みが、如何に困難を極むる仕事であるかは敢へて云ふまでもない。即ち正統的純粹理論は餘りにも抽象の世界に昇華し去りて、現實經濟の統制乃至計劃的若しくは戰時的發展を基礎付けるに足らざる觀がある。而も新しき理論體系は徒らにそれへの要請のみ聲高く、其實質的内容は空疎か混沌の域を多く出でざる有様である。

此時本學教授正井博士は新しき經濟理論體系樹立の第一階梯として頭書の著作を公にせられた。人も知る、博士は既に貨幣・金融理論に於て我國學界の權威であり、又本學に於ては教授の傍ら専門部長の要職に在る。恐らく日常多忙の間に在つて此大業に着手せられ、早くも其一部を本書に結實せしめられたる博士の精力的なる學問的努力に對し、先づ衷心より敬服の念を禁じ得ない。

本書は序文にも述べらるゝ如く、博士の意圖する「國民經濟原論」の第一編「總論」に當る部分にして、此處に於ては經濟學の基礎的諸問題と國民經濟組織の問題とが取扱はれる。引續き從來

の市場經濟的經濟理論の説かるゝ第二編社會經濟論、國民經濟の靜態と動態とが問題とせらる、第三編國民經濟變動論、計劃、統制其他諸政策に依る國民經濟の運営が研究せらる、第四編國民經濟運營論と相俟つて、博士の經濟學理論の體系が大成せらるゝ筈である。

人はこれに依つて何よりも、博士の意圖に於ける理論體系の、極めて雄大なるを歎知し得るであらう。博士は本書を六章に分ち、初めの二章即ち第一章緒論、第二章經濟學の基礎的諸概念を以て、先づ一般經濟學的諸概念の究明に充てられる。次いで第三章國民經濟組織、第四章社會組織（市場經濟）第五章國家財政（制度的國家經濟）、第六章國家共同體經濟の四章に於ては、博士に於ける國民經濟組織の何たるやが論述せられ、從つて又これを通じて、博士の意圖に在る國民經濟理論の體系が示されることとなる。

少しく立入つて見るに、博士に依れば國民經濟とは國民の經濟生活であるが、それは決して個人經濟の集合ではなくして、一の生活組織體としての國民共同體の經濟であり、同時に國家共同體の經濟でもある。

國民經濟は其組織としては、個別經濟の集合的現象たる社會經濟と公私の共同體經濟（其最大なるものが制度的國家經濟又は政府經濟とも云はるべき國家財政である）との統合よりして成立

する所の「國」全體の經濟生活の組織である（八一頁）。而も此國民經濟は單に組織だけのものではなくして、其各部分の意思とは異つた一の全體的意志に支配せられて夫自行爲するところの經濟である。

即ち此處に從來の社會經濟理論及び國家財政論を其中に包括しつゝ、更により高次の全體的國民經濟學の樹立を指向する前記理論體系の根據が看取せられ得るであらう。

勿論博士が本書に於て示されたる意圖と其論証とは、此短文を以て能く其全貌を盡くし得べくもない。其所論の積極的なるだけ、それだけ多くの問題を含むことも蓋し當然であらう。しかし今は唯、經濟理論に關心を寄する程の人が、直接本書につきて博士の建設的なる主張に聽かれんこと多きを望んで、此紹介の筆を擱く。A5版二三〇頁、大同書院發行、價二、〇〇。森川太郎教授紹介

Emil Rengier  
著 夫譯

ダニユーブ

今夏のナチス軍の對ソ進攻と其輝かしき捷利こそは、盟邦日本の人々の願ふ所であらうが、運命の神は、左程簡單なる決裁即武力闘争のみによつて、歐洲に新秩序が招來されようとも思へぬ所に、世界の視聽は集らうと云ふものである。此

原因に對して、「ダニユーブ」の著者レンギルは、雄々しくも

「吾々が歴史を如何に、理解するにせよ、此ダニユーブ地帯に於いては十數世紀に亘るゲルマン、スラブ兩民族の闘争が眺められる。若し吾々が次の事實を常に心に留めておくならば」

と前提して、スラブが常に西方へ、ゲルマンは之に反攻をしつつ東方へ、前者は最肥沃なる土地を持ち乍ら海へ、後者は海に面し乍らも土地を欠いてゐて、そこに運命の數奇が發足するとの見解を吐露してゐる。此ダニユーブに生れ、此環境への愛憎と敏感とは、稍もすると歐洲を西歐的にのみ理解し來つた日本人には大いに參考とすべき所であらう。夫れは、夫故に、又、今回のドイツのウクライナ「コロカサ」進攻が單なる從來の市民戰争的理解を遙かに越えた、未驗の因子を含みつつある事を意味しやう。即、レンギルは

「パリーの平和會議製造家達はダニユーブの歴史的使命について何事も知らなかつた。國家主義（民族主義）が當時の風潮であり、寛容が勝者の徳でないことを許容するとしても、此溪谷の切斷は優れた政治方策ではない。」

「舊此水流の不講は、統一への徑路のみを索めた」と一應、在來の方式を述べて更に、「一人の獨裁者がそれを見て、其目的達成のために準備しはじめた。ローマ協約こそダニユーブを地中海へ

# 統制經濟の政策的論理的解釋

大學生 藤原松

今日の經濟、即ち統制經濟を理解せんとすると、そこに二つの著しい學問意識がみうけられる。一つは經濟倫理の主張であり、他は經濟的目的論的把握である。謂ふまでもなく、經濟倫理の主張は世界觀の轉換期に於ける過渡期的現象としてではあらうが從來の唯物主義的な態度を排して、經濟をより精神主義的に意味づけんとする試みであり、經濟的目的論的把握は經濟を政策的に理解せんとする試みである。

もとより經濟の政策的理解は、從來の如く經濟學の三分科、即ち、理論、政策、歴史の區分に於ける政策論の如き狭小なる分野の理論操作ではなく、新たな方法による實踐的なる理論體系の樹立を意圖することに依つて危機に直面せる現代の理論經濟學を現實科學として實踐の爲めの正しき基準を獲得せんとするものである。而してかゝる意圖が何んらかの意味に於いて歴史と經濟に對する政治的要素を問題とする限りイギリス經濟學の方法論よりは寧ろドイツ經濟學の方法論に依存するものであらふ。

さて經濟學は發生史的には實踐經濟學

即ち經濟政策から出發した。イスラエル、エジプト及びギリシヤの如き古代に於いても經濟政策上の方策が存在し、經濟體系の最初の業踐である重商主義や重農主義も明らかに經濟政策の體系であると観ることが出来る。實踐的經濟學は觀照的經濟學を呼ぶ。近世に入るや經濟學は「斯くあるべき」(Sollen)の學から「斯くある」(Sein)の學に發展した。思想發達の歴史に顧みて當然のことである。随つて理論的には經濟學の研究方法は目的論的考察方法から因果論的考察方法に變り、經濟學は經濟の概念規定並に經濟現象の因果關係を認識することによつて現象に存在する客觀的なる經濟法則の究明把握に従事するに至つた。英國正統學派に源を發し有餘曲折して今日に及べる理論經濟學がそれである。理論經濟學は經濟學の發展に又我々人間の經濟諸活動に貢獻したるものであるが同時に初期に於けるが如き經濟學の實踐的性格を消失し、現實と遊離せしこともまた争へぬ事實である。かゝる傾向に於いては經濟の倫理的考察は一般的に排除せられる。これは經濟が財の自然的缺乏、或は財の稀少性から起る人間の對物活動であるといふ考へから人間の社會生活を物質の面と精神の面に大別し、倫理は人間の斯くあるべき(當爲)規範に關するものであつてそれ自體精神的なるものであり、經濟はそれに反して物財獲得の行爲であり、それ自體存在に關するものなる

が故に、倫理的考察の對象とすべきでないといふにあつた。けれども、經濟學は自然科學と異り、個別的に存在してある人間を基礎とするものではなく、諸他の社會科學一般と同様、社會的に意慾し行爲してゐる人間を基礎とする。随つて經濟て人間の對物活動は人と人とが接觸する社會過程に於いて成立する。端的に謂へば精神といふも物質といふもそれは唯れ人間の生活關係より派生せる側面であり根源を同じくする。随つて經濟の領域に於いて倫理の成立する餘地がある筈であり、世界觀の轉換期とそれに照應せんとする經濟的目的論的把握に於いて經濟倫理が主張せられるのは必然であり極めて自然であるといふべきである。

想ふに經濟學は時代の兒である。随つて經濟の認識に當つては歴史的發展段階に超然たることは許されない。換言せば歴史の媒介を無視することは許されない。されば今日の經濟的目的論的把握は經濟學が失へる實踐的性格の回復であり、簡潔に表現すれば、失へる實踐的性格と獲得せる理論構造とを歴史を媒介とする辨證法的手法に依つて理論的、實踐的なる經濟學體系を建設せんとする試みである。

然しかゝる意圖は別に新らしき或は創造的なる問題ではない。何故ならば既にドイツ歴史學派によつて問題化せられてゐるからである。けれども今日、理論と實踐の統一原理の要求としてかゝる課題が再び現代的意義を持つに至つたのは時

迄牽く試みであつた。」とダニューブ地域と地中海領域の合流が、自らなる「地政」たる事、そこに再建歐洲を眺めようと試みてゐるが、更に注目すべきは

「數千萬の人々は悲惨なる存在をつづける代りに、より幸福なる生活を樂しむ事が出来る筈なのである」

との確信、從而、イギリス風の「民族自決」がこゝでも「歐洲の統一と完成」とを妨げてゐる事を指摘してゐる。此の自由民主、個人主義政治哲學への訣別は、其處に必然に「民族協和」の可能を唱導せしむるに至り、ダニューブを「生の河」として、黒森から黒海へ、二八四〇浬の流程の大統一を期待し其處に今次戰爭が、在來の「ダニューブ」聯盟案や更に至歐聯盟的構想に代はる或種の新來の要素の發生をのぞみつつある様である。

然し、遺憾にも、その點に本書はふれてゐない事は讀者に失望を與へるであらうが、とに角ドイツが對英戰の最中に、對ソ戰を開始した理由については、とかく皮想的に「換言すれば西歐的に」しか知られない日本人にとつて、同書の物語る所は大いに買はれるであらう。諸、此「ダニューブ」が一方ドイツの背景を明らかにする一書とすれば其相手たる「ロシア」については左の近譯書が充分に對照して讀まらるべきものと推奨される。

(B6版二四一頁、地平社發行 價一、五〇錢 中村長之助教授紹介)



代が課する經濟の内容變化、抽象的には自由主義經濟から統制經濟へ、具體的には資本主義經濟の精神的基礎並に經濟組織の修正、變革に基く現實の切實なる要請であり、それに對應せんとする經濟學の反省、自覺の結果である。私はこの小論に於いて經濟倫理や經濟の目的論的把握に關する具體的な問題を論ぜんとするのではなく、それらの問題は後日の機會に譲り茲には、かゝる課題の基礎をなす今日の統制經濟が如何なるものであるかを、制限ある紙數内に於いて政策論的考察せんとするものである。

二

經濟の倫理や經濟の目的論把握が有意義なる學問の課題として成立する現實の經濟は、謂ふまでもなく統制經濟が支配的である。隨つて先づ統制經濟の成立過程を考察せねばならない。何故ならば統制經濟が如何なるものであるかを知るには統制經濟が如何なる過程を経て成立してきたかを知る必要がある。統制經濟の成立は各國その過程を異にすが一般的には資本主義經濟の一定發展段階に出現せる所の經濟組織である。資本主義は近世初期に於ける自然法的な哲學及び功利主義を基調とする自由主義思想が、當時勃興せる商業資本家階級に迎へられて發展した經濟組織であり、資本、自由、私有財産を三原理として利潤獲得のための生産

關係が自由に放任せられて國富の増進がもたらされるものと考へられた。だから當時は國民の私經濟的活動の自由が一義的に強調せられ、その反面に國家活動は極度に縮小せられた。即ち國家の經濟への干渉は、人類共存の理想たる積極的厚生のために最少限度に留めるのが最善であるときへ考へられたのである。自由資本主義は實にかゝる觀念のもとに生成發展した。隨つて資本主義經濟に於ける經濟秩序は、謂ふまでもなく人間の利己心と自由競争を前提とする價格法則による自動的調節作用により形成せられる自然的合理的秩序であつた。然し利己心並に自由競争は互に存在するものを排他するし、又資本主義特有の弊害たる恐慌は、資本家が利潤を目指して相互に自由競争を奮む自由資本主義から資本家相互間の競争を排除して利潤を確保せんとする自治統制組織(カルテル、トラスト、コンツェルン)へと進展せしめると共に他方階級並に利害の對立激化は勞働組合、協同組合、産業組合、雇主組合等個人主義的自由活動とは對蹠的な團體組合運動を展開せしめ價格法則による自動的調節作用は全く阻害せられるに至つた。茲に資本主義は經濟的にも社會的にも自ら拘束せられ獨占資本主義へと發展したの

が、今日の世界的傾向であり茲に論述する統制經濟は、獨占資本主義の段階に於ける企業自ら行ふ獨占統制又は、資本家が行ふ自治統制の如き私的統制經濟を意味するのではなく國家機能により、國家自ら主體となつて廣く國民經濟領域を統制せんとする公的統制經濟を意味する。即ち國家統制經濟である。國家統制は國民經濟的には自治統制者間の對立摩擦の調整並に弊害の解消を目的として出現したが對外經濟的には殊に第一次世界大戦に基因する世界經濟の構成的變化、その後に於ける經濟的國家主義の擡頭による世界經濟の萎縮並に各國の資源配分の不平等即ち植民地再分割問題を中心として國際對立の激化を來たし、戦争の危機を孕むに至つた。各國は戦争の準備の爲めに平時國民經濟を準戦時に、戦争の勃發は、これを戦時國民經濟に飛躍せしめた。經濟に對する國家統制は準戦時から戦時への發展に相對して國家的目的の具現のために益々強化せられたのは衆知の事實である。斯くの如く統制經濟が資本主義の發展段階に成立せる自治統制から發展したのは、かゝる發展契機が資本主義の展開過程に形成せられたること

を立證すると共に、更に國家統制へと進展したのは、時代的變化、即ち今日の如き歴史的客觀狀勢の變遷に伴ふ經濟に對する概念並に目的の觀念構造的變化と其の基礎構造的現實の經濟とが矛盾するに至り、茲に矛盾の解消を意圖し目的達成の手段として國家主體による經濟の統制、即ち國家統制經濟が成立するに至つたのである。統制經濟の成立過程を以上の如く認識するならば、日本統制經濟論の著者原祐三氏が特に我國統制經濟成立の思想的根柢として(一)統制經濟を自由資本主義の展開過程に必然的に出現せる經濟組織と觀する立場、(二)經濟恐慌時代に於ける合理化統制と全體主義統制とを混同する立場、(三)ドイツ、イタリヤに鑑みて統制經濟をとるべしとなす立場、(四)戦争目的達成の手段としての戦時統制經濟なりとす立場の四つ々の思想的混在を指摘せられてゐるが、極めて妥當なる考察であると謂ふべきである。扱て統制經濟は經濟社會に嚴存する客觀的な不變的、經濟法則を無視するものではない。けれども經濟が國家に指導せられ、計畫せられ、又監督せられる今日の狀態に於いては經濟の秩序は從來の個人主義、自由主義を基調とする自然的、合理的なものから、全體主義、統制主義を基調とする人為的、強制的なるものへの變遷が行はれる。然してかゝる變遷への媒介は國家の政治政策の實踐に依りて達成せられる。けれども國民生産力の發展を中心とし、その發展段階に對應する生産、配給、消費の調整を目的とする統制作用は統制經濟法令並に統制經濟政策の實踐によりて達成せられる。隨つて統制經濟の成立には政治的なるものと經濟なるもの、內的關聯の組織化、換言せ

ば經濟秩序と政治秩序の國家的統一が根本目的となる。我々は茲に統制經濟の政策的理解、即ち目的論的把握の可能性を認識するのである。統制經濟を政策的に理解するならば、統制經濟に固有なる經濟倫理の主張もまた可能となる。何故ならば經濟倫理は經濟社會に於ける人間行為の合目的價值秩序であり一つの規範である。即ち人間の經濟意識に對してあるべきもの、當爲として働きかけるところのものである。故に統制經濟に固有なる經濟倫理は、統制經濟の目的論的把握が可能となることによつて明らかに成立するものと考へられるからである。

三

國民生産力の發展を中心として、その發展段階に對應する生産、配給、消費の調整を目的とする統制作用は、具體的には統制經濟法令と統制經濟政策の實踐によりに達成せられる。先づ統制經濟法令を觀るに、我國の如く自由經濟から統制經濟への轉換過程が經濟的に十分なる成熟を遂げた結果ではなく政治的、軍事的必要より急遽飛躍せしめられた國にあつては、各種の統制經濟法令の整備が必要であり、これらの法令に基く全般的統制の段階を経て經濟組織の修正及び變革を行はねばならなかつた。我々は昭和六年の重要産業統制法、昭和十二年の輸出

入品等臨時措置法、臨時資金調整法、外國爲替管理法中改正法律、米穀應急措置法、臨時船舶管理法等の非常立法、昭和十三年の國家總動員法、その改正等の法令の制定實施に依つて統制經濟の強化が行はれたのを知ると共に法令の整備が必要であつたことを察知する。謂ふまでもなく經濟法令は經濟社會發展の動因をなす生産關係の今日を規整し、將來の動向を指示するものであり、自由經濟時代に於ける民法、商法の修補的意義を有するものである。近時發令せられる經濟法令の多くは、個人主義に立脚する私法上の關係、營業自由制を根幹とする統一的、形式的法體系とは異り、營業自由制の修補、全體主義に立脚する國民經濟の國家的統制の立場から經濟社會との關聯に於いて具體的、實質的に定められる規範である。想ふに經濟統制に固有なる統制經濟法令は國家主體が私經濟の部面に對する干渉或は拘束をなすところに成立するものである。けれども法令による統制作用は、あくまで經濟に直接關係する法律上の作用、即ち法律的意義に於ける統制作用であつて、經濟的意義に於ける統制作用はもとより經濟政策の實踐に依りなされるものである。殘されたる紙數が限度に近づいた爲め諸種の政策領域に於ける統制作用を述べる餘裕がない。隨つて茲には統制經濟政策を經濟過程の綜合的、基本的區分による生産政策、配給政策、消費政策の三部門に大別し、

特に我々の日常生活を通じて體驗する統制の具體的作用を一、二抽象的に考察するに留める。先づ生産政策の部面に於いては軍需生産力の擴充政策を中心として従来の生産の自由に基づく營利活動、特に平和産業の生産活動は拘束せられ、生産の自由は、今日、生産の指導主義に代りまた國營主義も部分的なものから擴張せられる傾向に進んでゐる。想ふに國防經濟要請と共に生産統制は民需と軍需との關係をにらみ合せ益々強化せられるであらふ。消費政策の部面に於いては、個人的消費は相當制限せられ、公的消費（軍需的消費）は擴大してゐる。隨つて消費統制は積極的に頭制配給制度により、消極的には勸誘制度に依つて整備せられてゐる。配給政策の部面に於いて問題になるのは物價であるが、物價は一般的に觀て、從來の如き貨幣的側面と貨貨的側面に於ける需要供給の法則によつて定まる市場價格は、生産費に依る適正價格によつて公定せられ、一種の政策價格が商品流通を支配し價格の變動は制約せられてゐる。

斯くの如く經濟政策の實踐は統制作用を國民經濟に及ぼす、けれども更に偉大なる統制作用は國家經濟の擴大、強化を通じて行はれる。即ち貨幣を中心とする金融政策、租稅徵收を基礎とする財政政策に依つて行はれてゐる。端的に言へば國家經濟の部面と私經濟の部面の内的關聯、その合理的組織化ほど、國民經濟を全般的に統制する強力なる作用はない。斯くの如く統制經濟法令や統制經濟政策が國民經濟に對して強制的規範たるの價値、並に統制作用を有するのは、その背後に無限の實力が存在するからである。

端的に謂へば「斯くあるべし」といふ意欲を創造し、實踐するものは力、即ちマハトである。この力の所有者は謂ふまでもなく國家であり、これを公權力と謂ふ。公權力を行使するものは政治的統制團體である。

隨つて諸種の統制經濟法令は政治統治團體が國家の經濟的目的達成の爲めになす法的手段であり、諸種の統制經濟政策はその目的、即ち國民生産力の發展を中心とし、その發展段階に對應する經濟的綜合的、基本的區分たる生産、配給、消費を經濟過程の意識的調整を實現する爲めになす國家の配慮である。配慮とは端的に言へば政策目的と政策手段とを含む概念である。然らば統制經濟とは抽象的には經濟法令の發動及び經濟政策の統一的實踐による統制作用により國民經濟が意識的に且つ全體的に統制せられる經濟體制であると言ふことが出来る。

以上極めて粗雑ではあつたが茲で一應この小論を終る。(一七、六、二三)

國民生産力の發展を中心として、その發展段階に對應する生産、配給、消費の調整を目的とする統制作用は、具體的には統制經濟法令と統制經濟政策の實踐によりに達成せられる。先づ統制經濟法令を觀るに、我國の如く自由經濟から統制經濟への轉換過程が經濟的に十分なる成熟を遂げた結果ではなく政治的、軍事的必要より急遽飛躍せしめられた國にあつては、各種の統制經濟法令の整備が必要であり、これらの法令に基く全般的統制の段階を経て經濟組織の修正及び變革を行はねばならなかつた。我々は昭和六年の重要産業統制法、昭和十二年の輸出

入品等臨時措置法、臨時資金調整法、外國爲替管理法中改正法律、米穀應急措置法、臨時船舶管理法等の非常立法、昭和十三年の國家總動員法、その改正等の法令の制定實施に依つて統制經濟の強化が行はれたのを知ると共に法令の整備が必要であつたことを察知する。謂ふまでもなく經濟法令は經濟社會發展の動因をなす生産關係の今日を規整し、將來の動向を指示するものであり、自由經濟時代に於ける民法、商法の修補的意義を有するものである。近時發令せられる經濟法令の多くは、個人主義に立脚する私法上の關係、營業自由制を根幹とする統一的、形式的法體系とは異り、營業自由制の修補、全體主義に立脚する國民經濟の國家的統制の立場から經濟社會との關聯に於いて具體的、實質的に定められる規範である。想ふに經濟統制に固有なる統制經濟法令は國家主體が私經濟の部面に對する干渉或は拘束をなすところに成立するものである。けれども法令による統制作用は、あくまで經濟に直接關係する法律上の作用、即ち法律的意義に於ける統制作用であつて、經濟的意義に於ける統制作用はもとより經濟政策の實踐に依りなされるものである。殘されたる紙數が限度に近づいた爲め諸種の政策領域に於ける統制作用を述べる餘裕がない。隨つて茲には統制經濟政策を經濟過程の綜合的、基本的區分による生産政策、配給政策、消費政策の三部門に大別し、

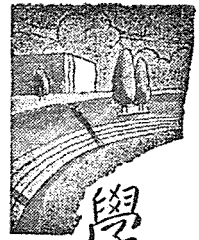
特に我々の日常生活を通じて體驗する統制の具體的作用を一、二抽象的に考察するに留める。先づ生産政策の部面に於いては軍需生産力の擴充政策を中心として従来の生産の自由に基づく營利活動、特に平和産業の生産活動は拘束せられ、生産の自由は、今日、生産の指導主義に代りまた國營主義も部分的なものから擴張せられる傾向に進んでゐる。想ふに國防經濟要請と共に生産統制は民需と軍需との關係をにらみ合せ益々強化せられるであらふ。消費政策の部面に於いては、個人的消費は相當制限せられ、公的消費（軍需的消費）は擴大してゐる。隨つて消費統制は積極的に頭制配給制度により、消極的には勸誘制度に依つて整備せられてゐる。配給政策の部面に於いて問題になるのは物價であるが、物價は一般的に觀て、從來の如き貨幣的側面と貨貨的側面に於ける需要供給の法則によつて定まる市場價格は、生産費に依る適正價格によつて公定せられ、一種の政策價格が商品流通を支配し價格の變動は制約せられてゐる。

斯くの如く經濟政策の實踐は統制作用を國民經濟に及ぼす、けれども更に偉大なる統制作用は國家經濟の擴大、強化を通じて行はれる。即ち貨幣を中心とする金融政策、租稅徵收を基礎とする財政政策に依つて行はれてゐる。端的に言へば國家經濟の部面と私經濟の部面の内的關聯、その合理的組織化ほど、國民經濟を全般的に統制する強力なる作用はない。斯くの如く統制經濟法令や統制經濟政策が國民經濟に對して強制的規範たるの價値、並に統制作用を有するのは、その背後に無限の實力が存在するからである。

端的に謂へば「斯くあるべし」といふ意欲を創造し、實踐するものは力、即ちマハトである。この力の所有者は謂ふまでもなく國家であり、これを公權力と謂ふ。公權力を行使するものは政治的統制團體である。

隨つて諸種の統制經濟法令は政治統治團體が國家の經濟的目的達成の爲めになす法的手段であり、諸種の統制經濟政策はその目的、即ち國民生産力の發展を中心とし、その發展段階に對應する經濟的綜合的、基本的區分たる生産、配給、消費を經濟過程の意識的調整を實現する爲めになす國家の配慮である。配慮とは端的に言へば政策目的と政策手段とを含む概念である。然らば統制經濟とは抽象的には經濟法令の發動及び經濟政策の統一的實踐による統制作用により國民經濟が意識的に且つ全體的に統制せられる經濟體制であると言ふことが出来る。

以上極めて粗雑ではあつたが茲で一應この小論を終る。(一七、六、二三)



# 學 內 報

## 夏 期 行 事 日 程

### 〔第三學年〕

在學年限の短縮により卒業期が六月月繰上げられて九月となるので、それにつれて第三學年の夏期休暇、卒業試験日割並に卒業式は次の通り決定した。

授業終了、休暇終了、卒業試験、卒業式

學 部	七月六日	八月五日	自 八月六日	至 八月九日	九月五日
第一門部	七月六日	八月五日	自 八月六日	至 八月九日	九月五日
第二門部	七月六日	八月五日	自 八月六日	至 八月九日	九月五日
豫 科	七月六日	八月五日	自 八月六日	至 八月九日	九月五日

### 〔第二學年以下〕

行事終了、休暇終了、試験

學 部	七月六日	八月五日	自 八月六日	至 八月九日	九月五日
第一門部	七月六日	八月五日	自 八月六日	至 八月九日	九月五日
第二門部	七月六日	八月五日	自 八月六日	至 八月九日	九月五日
豫 科	七月六日	八月五日	自 八月六日	至 八月九日	九月五日

### 豫科長・専門部長賜謁

六月二十日より東京文部省に於て開催された全國高等學校長會議に本學からは村上豫科長、正井専門部長が出席したが、同二十二日午前十時最も教育御獎勵の思召を以て、天皇陛下には宮中西溜の間に出席、橋田文相以下三百二名の参列者に列立拜謁仰付けられ、村上、正井兩部長もその光榮に浴した。

## 學部海軍軍事講話

恒例の海軍軍事講話は六月二十六、七の兩日千里山學舎に於て學部第三學年に對して課せられた。兩日共午前九時より正午迄、海軍の一般知識に就いて吳海軍人事部第三課長續木大佐の講話があつた。

## 教 練 査 閲

本年度學部、豫科の教練査閲は學部は七月十七日、豫科は同十八日に大阪師團司令部附三浦少將を査閲官として行はれる豫定であり、専門部第一部は七月十五日の豫定である。

## 文部省視學員豫科視察

六月三十日、七月三日の兩日、京大教授文學博士西田直二郎氏が文部省視學員として専門學務局長倉唯嘉氏と來學、大學豫科教育狀況の視察があつた。

## 専門部國語漢文專攻科

## 文 部 省 檢 定 試 験

中等教員漢文科無試験檢定申請中の専門部文學科國語漢文專攻科に對する文部省の學力檢定試験は六月二十九日午後六時より九時まで第三學年生徒に課せられた。

## 人 事 異 動

囑託講師(學部) 小田 良弼  
 任教授 助教 廣瀬 捨三

## 入 學 試 験 日 程

學部は九月に卒業生を送り出すと共に十月から新學年が始まるので新入學生の詮術試験は左の通り行はれる。

▽願書締切——本年九月卒業者(八月廿四日)十六年十二月以前の卒業者(九月三日)

▽入學試験——九月五日

▽合格者發表——九月十二日午前九時

## 研 究 論 集 論 題 決 定

來る九月發行豫定の研究論集第十二號は前號發表の執筆者に一、二異動ありて、論題は左の通りである。

### 法 律 政 治 篇

行政處分の瑕疵について	教授	中谷 敬齋
財産罪の構造	"	植田 重正
改正民法に關する若干の問題	"	柳瀬 兼助
家督相続人の廢除の本質	"	福島 四郎
組織契約	"	國藏 胤臣
經濟統制法令における卸賣價格と小賣價格	"	野村 次夫

### 經 濟 商 業 篇

臺灣産業論	教授	磯部 喜一
大東亞共榮圈建設と交通問題	"	河村 宣介
地政學	"	中村良之助
最近に於ける支那の財政	"	三谷 道麿
イギリス帝國構造の現實	"	矢口孝次郎
我國銀行統制の進展	"	森川 太郎

### 文 學 哲 學 篇

廟制考(續)	教授	岡本勝治郎
苗族割記	"	高橋 盛孝
カントとシエラー	"	武内 省三
知られるものの構造	"	菅 守常
苦悶する現代英文學	"	片岡甚太郎
學史の一章として	"	"
カンタベリ物語序の歌	"	廣瀬 捨三

校

友

精神的糧として

宗教講演  
實戰談話  
を併せ開催

六月講演會は新機軸として京大教授羽  
溪了諦博士の「一如と對立」の宗教講演



(演講の士博識了溪羽)

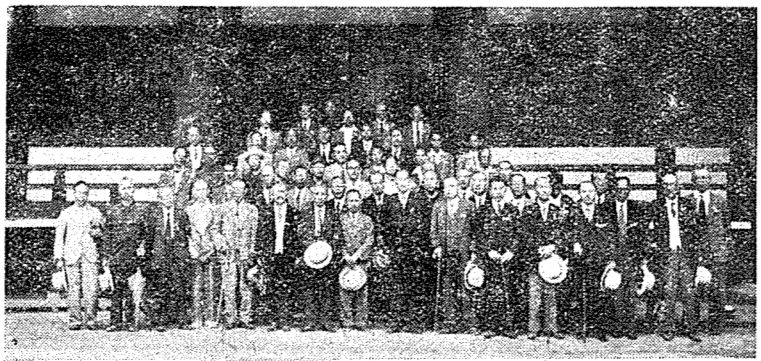
と共に大東亞戰爭下赫々たる戦果のかけ  
に眞に我が海軍をかくあらしめた海軍  
魂といふが如きものについて親しく海軍  
報道班員として潜水艦に同乗、具さにそ  
れを體得された本學校友、大毎特派員林  
信夫氏の「潜水艦と共に」の講演を併せ  
開催、會員の戰爭下に於ける精神的糧と  
してその意義を強調した。  
なほ「一如と對立」は本誌巻頭にその概  
略を掲載、「潜水艦と共に」は別項大略  
の如くである。

史蹟の探訪と

大楠公精神講演

大阪支部

六月二十八日(日)梅雨霽れの日、  
南河内觀心寺に楠公遺跡を訪ね、後村上  
天皇椅尾陵に參拜、午後一時より恩賜講  
堂に於て、大毎客員、大阪出版社長島屋  
政一氏の「大楠公精神と大東亞戰爭」と  
題する講演を拜聽、大楠公一族の誠忠と  
隠れたる事績を通じて大東亞戰爭に處す  
る我々の覺悟を一層強固に把持させられ  
た。それより楠公夫人の遺  
徳を偲び、徒歩三日市に出て錦溪温泉油  
屋に於て午後五時より總會を開催、内藤  
支部長より會務並に會計報告ありて、晚  
餐を共にし、七時半閉會した。出席者は



(てに前堂講賜恩寺心親部支阪大)

次の諸君であつた。

- 今田光臣、一海景岩、橋本應藏、西原新太郎、  
富田伸次郎、徳久清太郎、遠部逸太郎、大崎  
萬太郎、大月伸、後西大次郎、桂忠雄、河村  
官介、可野敬四郎、神尾敦民藏、柏元孝治、  
吉村種藏、吉田一枝、吉川芳三郎、竹西宗助、  
谷岡謙、高津次郎、辻本幸吉、永田良雄、内  
藤正晴、中村公男、中務平吉、永井量一、中  
村岩見、中村長之助、中塚勝治、浦田登、歌  
橋千秋、野崎勇二郎、野口政治郎、矢口家治、  
山根誠藏、山野巖、八木萬太郎、安井章吾、

- 山崎敬義、松本芳太郎、松崎義盛、前田常好  
松原健一、小泉幸治、兒玉善吉、近藤友房、  
澤美元次郎、佐伯三郎、木村順次郎、三浦三  
郎、水谷接一、道端常治郎、三島律夫、南清  
志野覺治郎、神保敬男、引野秀泰、森内梅吉  
森芳松、鈴木武夫、貞田好太郎

文化建設談話拜聽

第七十二回秀麗會

第七十二回秀麗會は四月十八日午後六  
時より中央公園の南華園にて開催、會す  
るもの主賓井健次郎氏(秀島氏令兄)  
をはじめ

- 木村、室山、高木、守谷、秀島、中島  
前川、加來、池内、松田、貴村、萩原  
平井、永田、小川、高階、北條、竹若  
の諸氏十九名

同夜は昭和十三年中華民國に派遣され  
た文化使節團の一員として彼地の文化に  
就き研討せられた井上氏の談話を拜聽、  
文化建設の至難な事に思ひを致すと共  
に、愈々それへの挺進を覺悟させられ九  
時過ぎ散會した。

〔談話大略〕文化使節團が支那に派  
遣される事になり阿部博士を團長に田川  
大吉郎、山本忠興氏など一行十二名、私  
もその末尾に加へられて北京に着いたの  
は昭和十三年五月の事でした。

▽：一體支那に西洋諸國が文化の根をお  
ろしたことは古い事で、カトリックは  
四五百年も前でありませうし、プロテ  
スタントにしても二百年の歴史を有し

ます。ネストリアンに廻りますならば千年もの歴史を有しませう。それは支那は全國に統一ある文化施設を自らの手でなすことが出来ず、外國のミツシヨンの運動に委せてゐたのでありましてその間随分立派な、献身的な偉いミツシヨナリーも來てをります。

△：駐米大使胡適氏をして「我らは今や産みの血を流してゐる。何を産まんとしてゐるか、それはニュー・チャイナである。ニュー・チャイナとは何か、即ちアメリカン・デモクラシーである」と叫ばしめた事は今日尙中國人の心奥を打つたばさうした理想を否定することは出来まいと考へられる証左たり得る。

▽：然し吾等は肇國の大精神に基き八紘一宇を目指して皇道を宣揚しなければなりません。大東亞戰爭の完遂と共に榮國の確立を期さねばなりません、中國内のこの米英勢力下にあつて細胞内に年久しく噴んでゐる文化機構を何うするか随分困難な問題であります。然しやらねばならぬ。何うしても吾等は眞珠灣内に攻め込んだあの精神力を以てやらねばなりません。

▽：たゞ注意を要する事は文化が孤立に陥ることは自滅に至ることでありませぬ。東亞文化圏も出来ませう。この時は孤立に陥らぬやう注意せねばなりません。皇道の特徴はその本意を齟齬ならしむると共に同化力にとむことであ

ります。皇道文化が八紘一宇を建設するとき、それは單なる幻ではなくて現實の理想であります。

第七十三回秀麗會

五月二十九日午後六時より第七十三回秀麗會を山縣通のカズベックに開催、本日は新京の光井君が満腹を辭して山東礦業會社へ御轉勤の途次訪れてくれた外は、高濱支部長は少々御仕事過ぎるのではないか、御不快で、又平井幹事長は中華民國へ出張中で公學堂の松本堂長先生は最近御不幸があつて夫々御缺席された。然し参加者はいつも多數で本日も

木村、室山、秀島、前川、萩原、早川、貴村、小川、荒川、光井、永田、竹若の諸氏十二名。

明日天津へ行かれると云ふ秀島氏が牛島出身の秀才青年を披露、その就職につき一同に協力を求められるなど、或は相變らず木村、室山兩先輩のユーモアな話題などで會は活潑な元氣な様相を呈するの嬉しい。ユーモア話がそろそろ終りになつた頃、學歌齊唱午後九時過ぎ解散した。

校友團結の意義強調

朝鮮支部春季總會

五月二十二日南山町京城ホテルに朝鮮支部春季總會を開催、遠く新義州より武内治一郎氏の參集あり、總數三十四名の

參加者を得て午後六時國民儀禮に始まり支部長の「毎月一回の神宮參拜によつて神に結ばれた團結たる本會は一億一心の聖戰完遂態度の一助たらんとする意義を愈々深くするもので、本會の年々の發展隆昌はそれを裏書するものと云へよう」とする挨拶に引續き、幹事長の會務、會計報告を異議なく承認、役員改選に移る。満場一致で岡本支部長の重任を決議し、他の役員は支部長に一任

支部長 岡本 至徳  
副支部長 松田 清  
幹事長 野田 博

幹事 高橋伊平 三上吉隆 山田壽男  
江藤榮七 岸本忠雄 眞田二郎  
大川正雄 伊藤國雄 田中豊次  
伊東祐一 海野美代市 竹根三郎  
飯田 守 川島通利 近藤 薫  
と決定、終つて記念撮影をなし懇談會に入り一同祝杯を上げ、又各地よりの祝電を披露し、和氣霽々の中に懇談盡きず、九時母校の萬歳を三唱して盛會に終了した。

當日の出席者

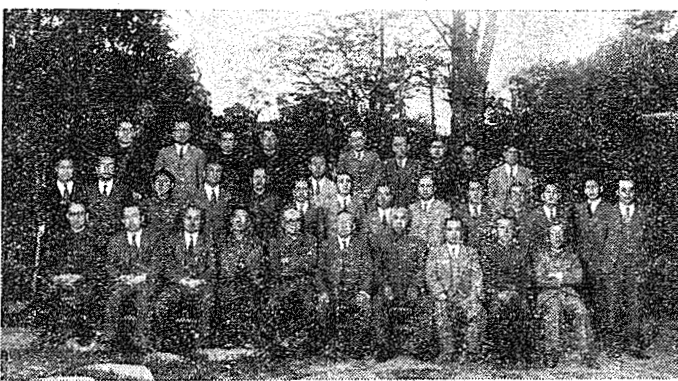
- 信田芳 岡本至徳 高橋伊平 太宰明 野田博 山田壽男 江藤榮七 岸本忠雄 眞田二郎 小西貞意 大川正雄 海野美代市 武田治一郎 竹根三郎 清水辨次郎 中田政信 岡野一郎 富永久良 吉本肇 外村治茂 佐竹圭介 木村富士 村上三政 川島通利 都築泰二郎 岩崎義二 藤原公生 近藤薫 今戸正之 森本正博 寺田正 梶健一 白柳利一 小野田 正

法曹千里會

會員植田完治君の大阪市職當選祝賀を兼ねて、堂島竹葉亭に春の總會を開く。

- 會する者 上田清、福西新左衛門、喜島秀太郎、浪江源治、櫻本信雄、河本尚、松村勘治、米田恒治、安富敬作、植田完治、春原源太郎、福岡彰郎、鎌師寺公臣。

特筆すべきことは母校の現狀に對して種々積極的希望意見等が出たことである最後に會員浪江君が學生時代の作、寮歌「御空に輝く燦爛の」を合唱して想ひ出を新にした。



會員消息

氏名下の數字中、漢字は大正年數、算用數字は昭和年數を16前は三月、16後は十二月卒業を示す、又括弧内にある消息は業務動靜

大法

安部 英彦(16前) 神奈川県平塚市、平塚市立商業學校内(同校教諭)

尼崎 政明(12) 滋賀縣八幡町、近江セ

金尾 登竹(6) (兵庫縣立諏訪山女學校)

北 幹夫(10) 吹田市北泉町三一七九

佐藤 丈夫(13) 新京特別市關東路四〇

澤田 康治(13) (大阪城東國民職業指導所男子紹介係長)

田中 進(14) 東京府南多摩郡町田町

高松 有爲(12) 高松市昭和町一〇四

竹下 文雄(16前) 北區我野町七〇、

村井方(日本輪業コム會社大阪セドラー工場工場課)

濱田 敷男(16後) 西區幸町通二ノ二一

結城 丙太(8) 東區南久太郎町二ノ

三、奉天滿鐵生計組合大阪出張所(同所長)

義岡 武熊(12) (大阪市立扇町商業學校教諭)

岩臨 明光(8) 天津市特二區津海道公署内(中華民國新民會津海道總會付津

海道公署輔佐官

北條 茂義(12) (大連機械營業課物動係主任)

植田 清次(9英) 兵庫縣川邊郡小濱村

川面 鶴野裏七ノ一 (阪急電鐵買取經營部庶務課)

神田 孝助(14哲) (大阪靴塗料工業組合)

大經

朝日 勤一(4) (關西甲種商業學校教諭)

大塚 泰助(61前) (日本、イント販賣會社)

高橋 武男(16後) 新京特別市平泉路四

一〇、滿洲炭礦會社人專課

野口 勝正(16後) 住吉區北田邊町三二

二、山崎實方

原田 三夫(6) 廣島市白島町北町一六

一ノ二〇 和田 茂男(16後) (靈北市表町二ノ六、南海興業會社)

北川 實男(14) (三和信託會社奈良支店)

西本 營兒(8) 奉天市陽田町九、康德

新聞奉天支社内(同支社)

專一法

江原 文造(8) 別府市中嶺通一三丁

目、西國民學校前、妹尾方(大分驛構内日本通運大分支店經理係)

金子 文亮(15) 全羅南道務安郡玄慶面亭里

專一經

成田 吉康(61後) 大邱府新町二六九

慶北道内務部調整課

横谷 紘一(9) 群山府全州地方專賣局

群山出張所内(同所)

泉森嘉一郎(15) 堺市五條通二丁二〇、

連水方

越智 宗七(12) 奉天市青葉町八、東京

火災保險會社奉天出張所

田中 巖(16前) 兵庫縣加古郡荒井村

荒井 一八二ノ二

丹生 環(16後) 德島縣那賀郡登敷町

仁宇 服部 靜彦(14) 名古屋市中種區田代町

本山一六四

〇二 鐵道弘濟會大阪支部  
天野峰三郎(12) 尼崎市西南川端六七

九 尼崎人造石油會社

枝廣 啓(6) 嘉義市榮町四ノ六四、

稅務官舍、靈南州屬、嘉義稅務出張所

小川 壯一(11) 神戸市須磨區西垂水御

靈町風呂前三六四 神戸市總務部總務課

沖島 基(5) 鹿兒島縣大島郡名瀨

町、大島中學校(同校教諭)

樽 庄一(9) (濟南市濟南鐵路局警務處保安科)

德光 畔作(明39) 岩戶榮養藥品創製所

島羽源四郎(明45) 布施市新喜多三八二

ノ三

名田 京一(5) (住宅營團大阪支所)

野村 吉治(8) 豊解郡箕面村牛町八五

蓮井 敏雄(9) 兵庫縣川邊郡川西町久

代 林上 精三(5) (大阪市主事、大阪市教育會)

安西 恒男(8) 東京市杉並區下高井戸

一ノ一三二

山口 正雄(五) 住吉區墨江西六ノ四

(高裁會學校聯盟主事)

山本 信一(10) 旭區蘇小路町五六五ノ

七

横山森近哉(五) 青島市山東路一八號

劉仁 德(14) 窪田と改姓、西淀川區

姫島町一七一〇

專二經

麻田友三郎(二) 三島郡三宅村藏垣内一

藤田 正明(13) 新京特別市露月町一ノ

四、西口方 新京錦町四ノ二一、日滿

鋼材工業會社出張所)

專二法

鋼材工業會社出張所)

專二經

伊地知兼郎 (13) (吉田組奉天出張所)

遺藤 吉次 (7) 堺市旭ヶ岡辰巳通三ノ

二一 大谷商事會社秘書

專 二商

篠原 公生 (12) 京城府三坂通三五五

大江 寛 (14) 埼玉縣北足立郡與野

町、日ビズ莊内、日本ビストンリンダ

會社與野工場會計課

川口 繁男 (16前) 德島市助任橋二ノ一

一 德島貯金支局庶務課

金 龍 八 (14) 金井教哲と改姓名、東

京市杉並區上高井戸五ノ二一六六 日

本報合金會社

藤野 剛三 (8) 神戸市森合區野崎通

一丁目、神戸市港都局總務課

吉田 榮一 (12) 西區北堀江五丁目、

三木商店

吉田 元男 (12) 泉南郡具塚町協濱、

大阪製鐵遺機會社具塚工場

矢野氏陸軍司政長官に

推薦校友で元富山縣知事として縦横に  
敏腕を揮はれた矢野兼三氏は今回七月七  
日附を以て陸軍司政長官に任命された。

同氏は周知の通り知事級の少壯敏腕家  
として將來を注目されておたところ、  
異に發命を見た文官任用令の初の適應  
者として昭和十六年退官せられ、今回  
南方に陸軍司政長官として返り咲いた  
わけである。

專 文

二川 利和 (14英) (大阪市土木局河川

橋梁課

山本 保 (13英) 旭區森小路町五六五

ノ七

吉田 貞澄 (5國) 神戸市教育局總務

課

潜水艦と共に

林信夫氏の六月講演會

本學專門部英語專攻科を昭和七年に  
出られた林信夫氏は大阪毎日特派員、  
海軍報道班員として潜水艦に同乗、親  
しく海軍將兵の戦下下に於ける粹々た  
る日常生活に接し殊に將兵とコロソボ  
近海に敵商船を追撃し、或は〇〇海々  
戦に出撃、レキシントン型米航母の撃  
沈を目前に見てこの程歸阪されたが六  
月二十九日の本會主催講演會に「潜水  
艦と共に」と題して、それら將兵の勞  
苦を傳へると共に「見張り」の嚴重さ  
艦内の熱氣、空氣など實感をつたへて  
切實に胸を打つものがある。中でも我  
が海軍を眞に斯くあらしめた海軍魂に  
ついて大傑次の如く語られた。

▽……最初わが潜水艦がひよつこり或  
る處へ(今は基地であるが)姿を現  
はした時住民達は驚いた。いままで  
見た事もない眞黒な異様な艦艇から  
はよきよきと現はれた水兵に「艦

物」を感じたのである。しかし水兵  
達はやさしかつた。今まで英國兵が  
傲然と住民に對したに比較して日本  
の水兵は面白い言葉で身ぶり足ぶり  
で話しかけ、いまでは全く友人の様  
に重い荷物を持つときはきつと一方  
をたすけてくれる。

▽……ある日、この潜水艦のほかに水  
上艦艇が堂々と入港した。これらの  
艦隊の勇士達は上陸すると直に隊旗  
を組んで街を行進した、街を出外れ  
てもまだ整然たる行軍は續いた。住  
民達はどこへ行くのだらうといふか  
しんだが、この行進は山すその日本  
人墓地の前で止つたのである。この  
榮と喜びとを見る事なく南溟の土と  
なつた日本人の先聲にまづ敬虔な祈  
を捧げる日本海軍に、世界一慄慄な  
帝國海軍のも一つの表情をいま目の  
あたりに見て、住民達はわけもなく  
感激したので。

▽……又私に戦争になつてからの日本  
の表情をたづね、心構へ以外に變化  
のない事は難有い、たとひ私がいっ

死んでも日本の國は榮えて行く  
國土に對するゆるぎなき信頼感にい  
ささかの怖れもなく戦へる」と語る  
豫備航空少尉が一月月の後〇〇海戦  
で壯烈な戦死を遂げた。その朝「あ  
まり理窟を考へるな、元氣に生きて  
ゐる故郷の父母のために……」と戦  
友に語つて飛出したといふ事をあと  
で聞いた。

▽……私はこの話を潜水艦長に話した  
ら、突然涙をばるばる出して泣きは  
じめた。そして「後の母は上海事變  
のとき毎日鎮守嶽へ跪足詣りをして  
おた。若い僕はその事は何も知ら  
ずに戦つた。歸國して初めてその話  
をきいて驚いたが、あゝいままそう  
だらう」と激しく身をふるはれた。  
しかしその翌日は烈々たる南洋の大  
洋に諸顔を光らせて、潜水艦の艦橋  
で靜かに帽子をふつておた。私は心  
憎いばかりに落着いたその姿を眺め  
ながらいつか眼頭が熱くなつた。日  
本人である自分を心から有難く思つ  
たのである。

改 姓名

昭13專二法 朴 元 達 木下 元 達

昭14專二法 劉 仁 德 窪田 仁 德

昭14專二商 金 龍 八 金 井 教 哲

討 音

猪又 賢治 (昭14專二法) 入營、中昭和十  
七年五月十七日、中支に於て戦死、軍曹

奥畑 隆 (昭13專二法) 戦死

曾我部嘉集 (昭15專一商) 大東亞戦争に  
出征中名譽の戦死

長岡 盛人 (昭4大法) 去る一月六日逝  
去

關西學院大學  
教授

青木倫太郎著

定價 三・八〇  
送料 一・〇〇

# 軍需工場 製造工業 原價計算簿記

新刊

序 歴史には轉換はあるが飛躍はない。經濟の轉換には必然性があつて一つの時代は次の時代を彌す爲めに必要なくべからざるものである。簿記會計に付ても新經濟體制下のそれが全然新しく發生したと云ふ譯ではない。資本主義時代に於て研究された損益計算書や貸借対照表が今日に於ても尙重要な研究課題であることには變りがない。然しそれ等を研究する目的に於て非常なる變化が起つてゐることを見逃してはならない。自由主義に立脚した資本主義的經濟は全體主義に立脚した統制經濟に轉換してゐるのである。個人主義的思考が支配的であつた經濟機構は過去のものとなり、今や全體主義を以てあらゆる經濟諸問題を解決せねばならぬ。かくて生産力擴充と低物價政策に寄與すべき原價計算の實踐が重要な課題となる。

關西大學學報第二百一號 昭和十七年七月十五日發行

青木倫太郎

東大 京大 駿河台 前大  
振替 東大 一八三二 八

大 同 書 院

大阪 北區 梅田 新道  
振替 大阪 一三九七 〇